「ここ危険」見分ける目を

姫路・飾磨小 児童ら安全マップ作成

犯罪が発生しやすい場所の見分け方を子供たちに知ってもらい防犯につなげる「地域安全MAP教室」（「だいじょうぶ」キャンペーン実行委、Kiss FM KOBE主催、東京海上日動火災保険協賛）が7日、姫路市立飾磨小（同市飾磨区恵美酒）であった。児童38人が学校周辺の危険箇所を探し出してマップを作成。講師の立正大、小宮信夫教授（犯罪学）は「犯罪者は、見た目では分からない。危険な場所を知って、近づかないようにしよう」と呼びかけた。

「地域安全MAP」は子供たちが危険な場所を探し出し、危険察知能力を身につけるプログラムで、小宮教授が考案した。市と東京海上日動火災保険が包括連携協定を結んでおり、市内での開催は昨年に引き続き2回目。

この日は、小宮教授が危険な場所の特徴を「（犯罪者が）入りやすい」「（周囲から）見えにくい」と説明。その後、東京海上日動火災保険姫路支店や代理店の社員らが先生役となって子供たちと学校周辺を歩いた。

参加した同小4年の女子児童は「（調査区域は）図書館へ行く時、いつも通る道。危ないと思ったことはなかったけれど、これからは一人で通らないようにしたい」と話していた。【幸長由子】

ブロック塀で視界が遮られた路地など、学校周辺に危険な場所がないか確認する児童ら＝姫路市飾磨区で

2019年12月8日（日）付　毎日新聞　播磨・姫路版
「地域安全MAP教室」 姫路市立飾磨小学校実施分　報告記事